



仙台・清月記、「仙台迎賓館 斎苑」 グランドオープンとして「想送フェスタ」開催



運営権を譲り受け、段階的にリニューアルを施し、グランドオープンになった「斎苑」。国道48号（作並街道）に面する本館（写真左）とその裏手に位置する別館



文化講演会
午前の部で
講演する薬
師寺執事の
大谷徹英師



午後の部で
講演するタ
レントの向
井亜紀さん



3基の棺を用意した入棺
体験。3基とも入棺する
人が多く、順番待ちにな
るほどの盛況であった



昼食時には清月記の飲食事業部
「一乃庵」の料理が振る舞われた

（株）清月記（本社仙台市宮城野区、社長菅原裕典氏）は、今年1月1日、会葬者1,000人規模の葬儀を行なえる貸し会館である「斎苑」（本館、別館）の運営権を譲り受けた。

1987年に仙台市初の葬祭会館として斎苑本館がオープン、その後96年に開設した別館は、社葬や大型葬に対応できる県内最大の葬祭会館である。

本館は開設から37年、別館も19年と年月が経っていること、そして清月記流のおもてなしに即すため、段階的なリニューアルに着手していた。

このほど、すべての改装を終え、「仙台迎賓館 斎苑」としてグランドオープン。講演会、セミナー、遺影写真撮影会、入棺体験などによる「想送フェスタ」を5月23日に開催した。

プログラムは、まず「特別文化講演会」として、午前の部に法相宗大本山薬師寺執事の 大谷徹英師による「幸福の条件」と題した講演、午後の部はタレント向井亜紀さんに

よる「命を輝かせるために～がんと向き合う～」と題した講演が行なわれた。

このほか、エンディングノートや相続の基礎知識、葬儀についてのセミナーに加え、健康維持につながる腹式呼吸や顔筋、舌筋、声帯まわりの筋肉組織の衰えを防ぐポイント、「おとなの食育講座」として野菜によるデトックス効果などの解説、旅行の楽しみ方といったバラエティに富むミニセミナーが8講座開講された。

昨今の終活フェアで定番となった遺影写真撮影会や入棺体験、さらには同社の飲食事業部である一乃庵による料理もビュッフェスタイルで提供。なかでも入棺体験は、棺3基を用意したが、順番待ちができるほどであった。料理も提供時間中、列が途切れることなく、来館者はさまざまな料理に舌鼓を打っていた。

斎苑は、清月記が運営するものの、今後も貸し会館として、同社以外の葬祭事業者の利用も可能である。